

演題名：「新電子カルテシステムへのデータ移行に向けたがん化学療法レジメン登録作業の見直しについて」

発表者：末森 千加子、中尾 あゆみ、辻本 純子、相生 勇作、中谷 宰士

抄録：

【目的】

新電子カルテレジメンシステムへのがん化学療法レジメンデータの適正な移行に向けて、登録フォーマット及び登録内容について医師及び看護師と協議して見直しを行ったので報告する。

【方法】

電子カルテレジメンシステムへのデータ移行をスムーズに行うために、レジメン登録フォーマットを紙媒体から新たに作成した電子媒体(エクセル)に変更した。その際、制吐剤やハイドレーション等の支持療法も含めて登録することとし、制吐剤及び輸液の標準化を行った。制吐剤については、日本癌治療学会編集のガイドライン等を基に、リスク分類毎に標準投与処方を作成した。溶解・希釈用の輸液が特定されていない医薬品の輸液は生理食塩液に統一した。ただし、ハイドレーション等で輸液量が多い場合は他の輸液も使用可とした。

これらを踏まえて、各レジメンについて各診療科医師、化学療法運営委員会委員及びがん化学療法看護認定看護師と協議して、最適な支持療法や投与順序・時間・ルート等を決定した。

【結果】

以前は、医師が各自の判断で支持療法を処方していたため統一性が無く、薬剤師による処方鑑査業務に多くの時間を要した。しかし、レジメンとして登録フォーマットに支持療法を追加することにより入力間違いや漏れがなくなり、鑑査時間が短縮でき、経験年数の短い薬剤師による鑑査も可能となった。

多職種が協力して作成することにより、より安全安心ながん化学療法を推進することができた。

【考察】

支持療法等の標準化により適切な制吐剤等の投与が可能となるので、処方忘れの防止や患者の副作用軽減にも寄与できる。

レジメン管理業務を電子媒体で行うことにより、漏れなく确实・簡便に作業ができるので、電子カルテへの移行時には、スムーズなレジメンデータの移行を期待できる。今後、新電子カルテにおいて、レジメン鑑査時に処方医と迅速かつ確実に疑義照会等を行う方法を検討する予定である。